

課題と提案及び今後取り組むべき施策の方向性(案)

資料②

課題	提案	施策の方向性
<p>○家庭状況に応じた社会的サポート(学校・家庭・地域の連携のもとで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立化している母親への対応 ・妊産婦等へのサポートの強化 ・類似環境にある親が集まる機会の構築 ・相談窓口にアプローチしやすい環境の整備 <p>○学校(幼稚園)を拠点とした保護者支援の充実</p>	<p>孤立化している母親への対応として、日常生活の中でアドバイスのできる様々な場面の設定を進める。そうした中で、地域におけるコミュニケーション、地域の人々との関わり合いなどを基盤に置いた社会を形成していく。</p> <p>地域が主導して、全戸訪問した妊婦の方や乳児家庭について、同年代の子どもを育てているなど、類似の環境にある親が、集まる機会を設ける仕組み作りを進める。</p> <p>妊産婦等に対する安定・安全な環境を確保するため、産前産後の母親に先輩格の女性が寄り添い、出産、育児の初期をサポートしていく「ドゥーラ制」などの周知を図る。若年でお母さんになる場合の手助けになる策を進める。</p> <p>家庭のあり方が多様化し、若年出産や高齢出産が増えてくる中、妊産婦等に対して祖父母等に代わる社会的なサポートなどを継続的に行う。</p> <p>乳児期・幼児期の保護者の支援に係る情報発信の方法として、フェイスブックやラインなどの時代に合ったSNSを活用する。SNSからコミュニティをつくることができれば、より身近に同じ悩みを持っている者同士の情報交換も可能となる。</p> <p>困っている親が必要な情報や支援にアプローチできるように、学校(教員、PTA)のつながりの中でいろんな情報や支援が求められるような環境を整備していく。</p> <p>保護者会やスクールソーシャルワーカーの活用などのサポートを通して、子どもにとって模範的な存在となるべき親が自ら学び、積極的に社会に関わっていくことができるような手立てを講じる。</p> <p>学齢前の子どもの保護者であれば幼稚園に相談することになるため、研修などをとおして、幼稚園教員の教育相談力や様々な関係機関につなぐ力の向上などを進めていく。</p> <p>様々な国の出身者が日本で活躍する時代を見据え、学校支援地域本部等を通して、必要とする保護者に通訳サポーターが支援するなど、きめ細かい支援を進める。</p>	<p>① 子育て中の保護者に対する社会的支援</p> <p>核家族化など家庭のあり方が変化し、若年出産や高齢出産などにより子育て世代が多様化する中で、保護者の孤立化を防止し、個々の家庭がその力を十分に発揮できるようにするため、地域全体で子育てを支援する体制づくりに取り組みます。子育て中の保護者同士の協力や子育てを卒業した者によるサポート、学校や幼稚園等を拠点とした保護者支援の機能を強化し、家庭状況に応じた支援を充実させます。</p>
<p>○親の学びに対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の教育力の向上・主体性の養成 ・親の学びの機会・プログラムの充実 ・子育てに役立つ情報発信の強化及び発信方法の工夫 	<p>それぞれの家庭の持ち味に気づき、親と子の絆を通して子の状況を把握し、様々な課題に対応していけるような手立てを講じる。</p> <p>保護者会やスクールソーシャルワーカーの活用などのサポートを通して、子どもにとって模範的な存在となるべき親が自ら学び、積極的に社会に関わっていくことができるような手立てを講じる。</p> <p>子どもが成長するに従って、親にはより高い見識が求められるため、親がより良い生き方を常に求めて生きるという観点から、生涯学習・生涯教育としての「親の学び」を進める。</p> <p>乳児期・幼児期の保護者の支援に係る情報発信の方法として、フェイスブックやラインなどの時代に合ったSNSを活用する。SNSからコミュニティをつくることができれば、より身近に同じ悩みを持っている者同士の情報交換も可能となる。</p> <p>困っている親が必要な情報や支援にアプローチできるように、学校(教員、PTA)のつながりの中でいろんな情報や支援が求められるような環境を整備していく。</p> <p>家庭教育リーフレット「やってみよう!親子でチェック」を手渡すだけでなく、各家庭で客観性のあるチェックリストを挟んで親子関係を見直すことを働きかける。</p>	<p>② 親の学びや親子の絆を深める機会の提供などによる家庭教育の支援</p> <p>子どもの成長にとって親の役割が大変重要であることから、親自身がより良い生き方を求め主体的に学ぶ機会を提供していくとともに、親と子の絆を深めるための取組を進めます。また、子どもの健全な成長に資する家庭環境の実現に役立つ情報を効果的に発信します。</p>

課題	提案	施策の方向性
<p>○学校教育を中心とした将来親になっていく子どもたち向けの取組の充実</p> <p>・道徳教育の充実</p> <p>・子育て体験学習の充実</p>	<p>親子や家族の絆、命などをテーマにして生の声(体験談)を子どもたちに届ける取組を進める。県独自で講師を人選し、学校に派遣する「道徳教育における講師派遣事業」など。</p> <p>読み物教材として、家族や親子関係を題材とした子ども同士の体験を綴ったエッセイ集などを導入する。</p> <p>子育て体験学習として、子どもを育てる喜びや意義とともに、子育てに係る困難さや注意すべき点などの必要な知識を学校で教える取組を進める。</p>	<p>③ 子どもたち向けの親の役割に係る教育の推進</p> <p>将来にわたる家庭の力の向上のため、学校の教育活動全体を通じて、今後親になっていく子どもたちに向けた親子や家族の絆、命の大切さなどをテーマとした道徳教育を進めます。また、子どもの発達を支える親の役割を学ぶ子育て体験学習を進めます。</p>
<p>○学校教育における地域の教育力の活用</p> <p>○社会に開かれた教育課程の展開</p> <p>○地域の力を活用したキャリア教育の充実</p>	<p>子どもたち向けの取組を進めるにあたって、地域の役割が大切なので、「チームスピリット」の理念で、学校、家庭、地域の連携を組織的に進める。</p> <p>変化が激しく、先が見えない社会にあって、学校はより良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を社会と共有するとともに、これからの社会を創る子どもたちに必要な資質・能力を育むために、社会と一緒に、学ぶことと社会のつながりを意識した教育課程の展開を図る。</p> <p>学校の教育目標や子どもたちに育もうとしている資質・能力についての地域の理解を図り、地域に備わっている伝統文化や技、企業力などを学校教育に活用する。</p> <p>将来立派な大人になりたいと思えるような体験をさせ、活動後に家庭に戻って、保護者と活動の振り返りの中でコミュニケーションを深めていけるような職場体験プログラム等を実施する。</p> <p>子どもたちがその地域で生きていきたいと思える魅力ある地域づくりを進める中で、地域の子どもたちに多様な生き方の可能性を発信するために、地域におけるボランティアやインターンシップ活動を進める。</p> <p>教師と親が腹を割って話し、子どもたちに本当にお互いを理解しようとしている姿を見せ、そのような中で子どもが育っていくことが大事であるため、積極的に保護者とお互いを理解しようと関わっていく教員を育成する。</p> <p>児童生徒に向けた支援の提供に関心を持つ大学生と充実した施設・設備を有する大学を地域の潜在能力として活用を進める。例えば、大学行事に子どもたちが参加できるようにすることや、留学生を活用した語学学習の提供や交流による異文化の体験など、大学生と子どもたちとの交流が考えられる。</p>	<p>④ 学校における地域の教育力の活用</p> <p>学校教育において地域の教育力を活用することは効果的であり、地域社会の将来の担い手育成にもつながることから、地域が有する伝統文化や技、企業、高等教育機関の力などを学校教育に活用できるような仕組みづくりを進めます。また、学ぶことと社会のつながりを意識した教育課程に基づき、地域と連携したキャリア教育を推進します。</p>

課題	提案	施策の方向性
<p>○学校外における支援の充実 ・学習支援の充実 ・体験的な学習の充実 ・子どもの特性や経済的事情に配慮した支援の充実 ○地域の特性に応じた取組の推進 ○子ども参加の地域活性化の推進 ○学校・家庭・地域の連携の強化 (組織的な連携の推進)</p>	<p>児童生徒に向けた支援の提供に関心を持つ大学生と充実した施設・設備を有する大学を地域の潜在能力として活用を進める。例えば、大学行事に子どもたちが参加できるようにすることや、留学生を活用した語学学習の提供や交流による異文化の体験など、大学生と子どもたちとの交流が考えられる。</p> <p>子どもたちの総合的な力の育成に資するため、学習支援のみならず、体験学習などの支援を充実させる。</p> <p>家庭の経済的事情から、塾での学習が困難であるような子どもたちに対して、可能性を伸ばすために、地域人材等を活用した学習支援を推進する。</p> <p>将来立派な大人になりたいと思えるような体験をさせ、活動後に家庭に戻って、保護者と活動の振り返りの中でコミュニケーションを深めていけるような職場体験プログラム等を実施する。</p> <p>子どもたちがその地域で生きていきたいと思える魅力ある地域づくりを進める中で、地域の子どもたちに多様な生き方の可能性を発信するために、地域におけるボランティアやインターンシップ活動を進める。</p> <p>地域の力を活用し、消極的な子どもたちが積極的に取り組めるようにするための手立てを講じる。世代を超えてグループ分けした集団生活の場を設けたところ、消極的な子どもが活気づくだけでなく、年上の人の話をよく聞くようになったり、協調性を身に付けていくなどの効果があった。</p> <p>地域と学校が一体となった避難訓練や、子どもたちが地域マップづくりを行うなど子どもたちが大人が言うように動くのではなく自分が考えていくという子ども参加の地域づくりを進める。</p> <p>青少年の健全育成や安全対策等は、地域との連携の下に進めることが効果的なので、関係機関との連携を進めながら地域と連携して、子どもたちを支えていく体制づくりを進めていく。</p> <p>地域におけるスポーツ関係のイベントに参加した子どもたちが地域の人々と顔を合わせ、そこからいろいろな発展が期待できるので、運動会や相撲大会などのスポーツ行事を各地域で進める。</p> <p>学校・家庭・地域の連携による活動において、やや消極的で参加をためらうような子どもたちがもっと積極的に参加できる仕組みづくりを進める。</p>	<p>⑤ 地域を舞台とした子どもたち向けの支援</p> <p>子どもたちの生活全般を通じた健全育成や学びを支援するため、関係機関等さまざまな主体の組織的な連携を進めることにより、地域の中で、学習支援や体験的な学習の充実に資する取組を推進します。子どもたちの社会性、自主性、協調性を育むことができるよう、世代間交流活動や集団活動などの充実を図るとともに、地域の特性に応じて、子ども参加の地域活性化に資する取組を推進します。</p>
<p>○子どもたちの支援に携わる人材の確保及び活用</p>	<p>子どもたちを支援する人材として、子どもたちとお互いに学び合うことのできる学生世代や、その学生世代にアドバイスを与えていくことのできるシニア世代など、多様な人材の確保及び活用を進める。</p> <p>既存の取組を推進する上で、実効性を高めるため、地域住民や専門家、企業等、教育など様々な関心を持った、子どもたちの育成をサポートする人材のストックを組織的に進め、活動に結び付けていく。</p> <p>子育て環境の充実や児童福祉の取組などにおいて、専門的人材の確保が困難な市町村に対して、県からの専門家派遣等の支援を進める。</p>	<p>⑥ 子どもたちの成長に関わる人材の育成と活用</p> <p>様々な主体が子どもたちの成長に関わっていけるよう、地域住民や専門家等、子どもたちの育成や教育に関心を持った多様な人材の育成や活用を推進します。</p>